

Megaptera

小笠原 鯨見物 十周年



小笠原ホエールウォッチング協会
設立10周年記念特別号

目次

目次／はじめに／OWAの概要／OWAの会員制度	2
21世紀のホエールウォッチングへ向けて	筒井 秀法 3
OWA設立10周年を迎えて	宮澤 昭一 3
OWAの10年を見て	望月 昭伸、友松 こずえ 4
小笠原の思い出	中村 宏治 5
“見せる”ことから、より大きな“広がり”へ	宇津 孝 5
小笠原でのクジラ調査	ジム・ダーリン 6
OWA設立十周年に寄せて——通りすがりのクジラ屋より——	加藤 秀弘 6
日本で最初のホエールウォッチング	岩本 久則 7
「ホエールウォッチング」事始め	小林 正至 7
私のベストショット	望月 昭伸／倉沢 栄一／宇津 孝／吉野 雄輔／高砂 淳二／中村 宏治 8
小笠原のクジラとイルカ	森 恭一 10
OWA自主ルールの制定から今日まで	13
OWA 10年の歩み（資料編）	14
機関誌 <i>Megaptera</i> （メガプテラ）総目次抄	15

（表紙写真：M. Takahashi/Sea-Tac）

はじめに

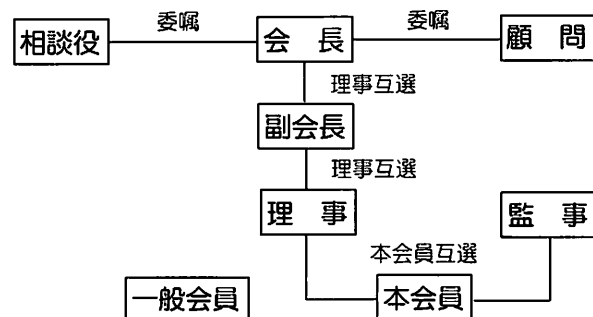
1988年4月、小笠原において日本で初めてのホエールウォッチング（以下、WW）が行われました。本誌の中にも出てくるように、この時期、クジラを巡り様々な人の様々な関わりがあり、それらが期せずして一つに重なり、小笠原諸島返還20周年記念事業の中に現れたのです。

同年、むらおこしのための様々な方策を検討するため、小笠原村商工会に「むらおこし事業実行委員会」が設置され、この中でWWが有望株としてとりあげられ、同委員会の中に「WW開発小委員会」が設けられました。小委員会は5ヶ月間に実に12回もの公式会合を持つなど、新たな産業を興すための気概に満ちあふれていて、WWの先進地であるマウイ島への視察研修も行うなどして、WWのルールや方法などについての基礎を築き上げました。そして、小委員会がそのまま「小笠原ホエールウォッチング協会設立準備委員会」となり、89年3月、“WWの振興と小笠原の発展に寄与すること”を目的として「小笠原ホエールウォッチング協会（OWA）」が設立されたのです。

以来OWAでは、WWの健全な発展を図るため、自主ルールに基づいたWWの提唱をはじめ、広報宣伝、ウォッチャーの受入、調査研究、普及教育などの活動を続け、99年3月に設立10周年を迎えました（14ページ年表参照）。これを機に、日本のWWの歴史でもあるOWAの10年についてまとめておくため、本誌の刊行に至りました。

なお、OWAは、会の活動に直接参加する議決権を持つ村内在住の本会員と、その他誰でもが入れる愛好家を中心とした一般会員とで構成されています。（記：森分邦行）

OWAの概要（1999年5月31日現在）



会員数：本会員 81人
一般会員 389人

役員：会長 1、副会長 1、理事 6、監事 2人

職員：常勤 2人

事業規模：18,523千円（98年度支出決算額）

事業年度：各年6月1日～5月31日

OWAの会員制度

本会の目的に賛同する方であれば、個人・法人・団体を問わず会員とすることができます。入会は随時受け付けています。会員には、年3回、機関誌をお届けします。

【本会員】議決権を有する会員です。年会費5,000円、小笠原村在住者のみ入会可能です。

【一般会員】特典として、おがさわら丸、協会加盟船、協定宿舎、飲食店、土産物店などで割引が受けられます。年会費3,000円、入会金500円、入会資格に制限はありません。

入会は、郵便振替（口座：00190-8-416227）又は直接窓口へ。